

に従っていたため、すべての解析において対数変換した値（以下 $\log_{10}\text{DUP}$ と記す）を用いた。単純集計及び重回帰分析は SPSS Statistics ver. 17.0 を使用した。

（倫理面への配慮）

当該施設における倫理委員会の審議を経て実施することに加え、個人情報の保護・管理には細心の注意を払った。また研究内容そのものは、文部科学省及び厚生労働省による「疫学研究に関する倫理指針」に準拠した。

C. 研究結果

1. 調査 1：プロトコール作成

多施設間の評価者における DUP の評価の一致に関して 4 施設 11 人の評価を、級内相関係数を用いて測定したところ、0.98 と高い数値を得ることができ、評価者間の一致度は高いとの結果を得ることができた。さらに予備的研究として調査済みデータで多変量解析を行ったが、統合失調症の未治療期間と予後の関係には有意な関係を見いだすことはできなかった。このような研究結果を踏まえて、プロトコールを作成した。

2. 調査 2：DUP 評価の一致率の検討

各施設間の一致率を評定するため、各施設の DUP 評価の平均点を求め、級内相関係数を算出した。その結果、8 施設間の級内相関係数は .98 と高い値が得られた。95% 信頼区間は 0.97~0.99 と高い値であった。次に、各評価者間の一致率を評定するために、級内相関係数を算出した。その結果、級内相関係数は 0.96 と高い値が得られた。95% 信頼区間は 0.93~0.98 であった。

3. 調査 3：認知機能への影響要因の検討

DUP 及び各評価尺度の要約統計量を表 1

に示す。本研究の対象者の DUP の平均は 39.7（標準偏差 83.7）であり、中央値は 4.9 であった。発症年齢の平均は 28.2 歳（標準偏差 8.2；中央値 29 歳）、初回受診時の平均は 32.2 歳（標準偏差 9.8；中央値 31 歳）であった。

Pearson の積率相関係数の結果を表 2 に示す。治療開始 1 年後の SCoRS の評価者全般評価得点は、DUP ($r = .58, p < .01$)、治療開始時点の PANSS の陰性尺度 ($r = .60, p < .01$)、SCoRS の評価者全般評価 ($r = .52, p < .01$)、SFS の合計 ($r = -.66, p < .01$) と有意な相関関係を示した。治療開始時点の SCoRS の評価者全般評価得点は、DUP ($r = .33, p < .05$)、治療開始時点の PANSS の陰性尺度 ($r = .40, p < .05$)、WHOQOL26 の平均 ($r = -.46, p < .01$) と全体 ($r = -.40, p < .05$)、SCoRS の患者全般評価 ($r = .50, p < .01$) と患者用フォーム ($r = .56, p < .01$)、SFS の合計得点 ($r = -.65, p < .01$)、GAF ($r = -.38, p < .05$) と有意な相関関係を示した。また、DUP は、治療開始時点の WHOQOL26 の平均 ($r = -.50, p < .01$) および全体 ($r = -.55, p < .01$) 得点と強い相関関係を示した。

ステップワイズ法による重回帰分析を行った結果、PANSS の陰性尺度と DUP が有効な変数として採用され、決定係数 (R^2) は 0.64、自由度調整済みの R^2 は 0.61 であった。標準偏回帰係数については、PANSS の陰性尺度 ($\beta = .55; t = 4.67, p < .01$) と DUP ($\beta = .54; t = 4.56, p < .01$) の両方が、治療開始 1 年後の SCoRS の評価者全般評価に対して有意な関係性を示した。

D. 考察

1. 調査 1：プロトコール作成

後ろ向き調査では、想起バイアスを排除することができず、データ解析にも限界がある。今年度の研究は、次年度以降の前向き研究を補助する研究になったと考えられる。

2. 調査 2：DUP 評価の一致率の検討

DUP における各施設間及び各評定者間の評価の一致性を検討する目的で、8 施設の精神科医 25 名及び臨床心理士 2 名が 20 症例の DUP 評価を行い、級内相関係数を算出した。各施設間及び各評価者間ともに高い一致率を示した。調査 2 では、評価にあたって大学病院精神科を受診した初回エピソード統合失調症症例の診療記録を用いた。

調査 2 の研究結果は、診療記録の記載から現病歴などに関する比較的詳細な情報が提示された場合に、評価者は高い一致率をもって DUP を評価できることを示唆するものである。しかし、評価者が DUP 評価を行うに十分な情報を患者から適切に入手できるかについては別途検討する必要がある。

DUP の評価は、言うまでもなく後方視的であり、精神症候学的な厳密さを追及すると極めて困難な作業である。すなわち発症時点の同定のためには精神病理体験を想起する作業が含まれる。従って DUP が長期に及ぶほど、評価時点からより遠い過去の体験の想起を求めることになり、体験の記憶そのものや時間的定位が危うくなることは明らかである。そもそも精神病的体験の始まり時点の主観的に言語化できるものであるのか、発症の形式はさまざまであり、

一点を定位することは可能なことであるのかという問題もある。さらに発症時点の同定に際しては、本人の記憶のみに頼らず、様々な行動異常に気付く立場にある、家族や関係者からの情報も重要であるが、彼らが診察の場に立ち会うとは限らず、診療録のみの見直しでは情報が限られる。もちろん通常は診療録に必ずしも必要十分な情報が記載されているとは限らない。そうした状況下にあって、大学病院等の診療録は予診も含め、初回エピソード統合失調症と診断された症例に関しては総じて十分な記録が残されている。この点も今回の結果に反映されていると考えられる。

一方、今回のような簡便な方法は厳密さに問題はあるものの、一定の条件付きながら多くの専門家の見解の一致を見る未治療期間とみなすことができる。この場合、本方法で得られる DUP 値は、他の情報の追加によりおのおの DUP 値は伸長することこそあれ短縮する可能性は少なく、いわば各症例における最短 DUP とみなすことができる。従って普及啓発のための指標としてこの方法で得られる DUP の公衆衛生的意義は失われず、むしろ行政施策立案のための多数データの収集、多地域間の比較、さらに介入による DUP 短縮効果の検討など後方視的方法以外には過去に遡っては収集できない対象（例えば病名変更前後の比較など）の検討の際には優れた方法である。

3. 調査 3：認知機能への影響要因の検討

初回エピソードの統合失調症患者において、治療開始 1 年後の認知機能は、DUP の長さ、治療開始時点の陰性症状の重症度、社会機能の悪さと関係性を示した。さらに重回帰分析の結果から、治療開始時点にお

ける陰性症状の重症度および DUP の長さ
が、治療開始 1 年後の認知機能の悪さを予
測する有用な要因であることが示唆された。
調査 3 の結果は、初回エピソードの統合失
調症患者を対象に **stabilization** 時と登録か
ら 1 年後の認知機能に影響する要因を検討
した先行研究の結果を支持した。一方で、
認知機能と DUP の間に関連性を見いださ
なかった研究では、初回エピソードの統合
失調症患者を対象に治療開始時点と治療
後 108 日時点（中央値）における認知機能と
DUP との関連性を検討しており、DUP と
認知機能の間に関連性を示した先行研究お
よび本研究と比べて、治療開始時点から認
知機能を評価するまでの期間が短い。これ
らのことから、DUP は短期的な認知機能よ
りも、長期的な認知機能との関連性を示す
ことが考えられる。これらの研究結果より、
統合失調症の早期発見・介入をすることによ
り、陰性症状が悪化するのを抑制すること
で、将来的な認知機能の改善度を高める
ことができると考えられる。

調査 3 の限界について述べる。現時点で
は、1 年以降のデータ十分にそろっていない
ため、長期的な認知機能の変化は現状で
はわからない。今後も、長期的なフォロー
アップ調査を続けることで、どのような要
因が将来の認知機能に影響を与えるのかを
検討し続けることが必要であると考えられ
る。

E. 結論

予備的な解析を踏まえて前向き研究のプ
ロトコールを作成した。DUP の評価は、一
定の情報が診療録等で提示された場合には
客観性が十分に高く、1 人の評定者が DUP
評価を行うだけでも十分な客観性が保たれ
ることが示唆された。これらの結果を踏ま
えて、初回エピソードの統合失調症患者に
おける 1 年後の認知機能に影響を及ぼす要
因を検討したところ、治療開始時点におけ
る陰性症状の重症度が高く、DUP の長い人
は、治療開始 1 年後の認知機能の悪いこ
とが示唆された。統合失調症は早期に発見し
早期に介入をすることにより、陰性症状の
悪化が抑制され、将来的な認知機能の改善
度を高めることができると考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

伊藤慎也、長谷川友紀、松本邦愛、辻野尚
久、東儀奈生、水野雅文：診療記録を用い
た DUP 評価における評価者間の一致度につ
いて、精神医学（in press）

2. 学会発表

なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

表1 DUP及び各評価尺度の要約統計量($n = 29$)

	平均値	中央値	標準偏差	最大値	最小値
DUP(月)					
対数変換前	39.7	4.9	83.7	360.0	0.1
対数変換後	0.7	0.7	1.0	2.6	-1.0
PANSS					
陽性尺度	20.1	20.0	4.8	28.0	11.0
陰性尺度	17.9	17.0	6.3	33.0	7.0
総合精神病理尺度	40.4	40.0	10.1	70.0	28.0
WHOQOL26					
平均	2.9	2.9	0.6	4.2	1.7
全体	2.6	2.5	0.8	4.0	1.0
SCoRS					
評価者全般評価	4.5	4.0	2.2	9.0	1.0
患者全般評価	4.1	4.0	2.0	8.0	1.0
患者用フォーム	32.6	30.0	9.1	55.0	20.0
評価者全般評価(12ヶ月時点)	2.8	2.0	2.0	9.0	1.0
その他					
SFS合計	105.8	107.0	27.1	149.0	44.0
GAF	43.3	41.0	13.2	70.0	20.0
CGI	5.0	5.0	0.9	7.0	4.0
CPmg	185.8	200.0	94.1	475.0	38.0

表2 評価尺度間の積率相関係数														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1 DUP(対数変換)	—	-.12	.09	.02	-.50 **	-.44 **	.33 *	.04	.10	.58 **	-.55 **	.10	-.21	-.18
2 陽性(PANSS)		—	.00	.43 **	.04	.13	.00	.15	.14	-.05	.27	-.30	.32 *	.27
3 陰性(PANSS)			—	.35 *	-.07	.05	.40 *	-.04	.13	.60 **	-.41 *	-.61 **	.33 *	-.05
4 総合(PANSS)				—	-.30	-.20	.19	-.13	.32 *	.12	.05	-.31	.48 **	-.26
5 平均(WHOQOL26)					—	.82 **	-.46 **	-.32 *	-.60 **	-.27	.53 **	-.17	.27	.41 *
6 全体(WHOQOL26)						—	-.40 *	-.22	-.56 **	-.21	.48 **	-.17	.19	.33 *
7 評価者全般評価(SCoRS)							—	.50 **	.56 **	.52 **	-.65 **	-.38 *	.14	-.24
8 患者全般評価(SCoRS)								—	.52 **	.13	-.41 *	.08	-.40 *	.15
9 患者用フォーム(SCoRS)									—	.07	-.43 **	-.17	.02	-.15
10 評価者全般評価(12ヶ月時点)										—	-.66 **	-.24	-.02	-.08
11 合計(SFS)											—	.20	.12	.05
12 GAF												—	-.61 **	-.06
13 CGI													—	.01
14 CPmg														—

Ⅱ． 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表（平成20年度～22年度）

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
東邦大学							
水野雅文.	早期診断・早期介入の意義と課題	水野雅文	専門医のための精神科臨床リユミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	2-11
辻野尚久.	前駆期における薬物療法	水野雅文	専門医のための精神科臨床リユミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	80-85
森田桂子.	教育分野・学校保健	水野雅文	専門医のための精神科臨床リユミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	186-194
辻野尚久、水野雅文	レジリアンスモデルに基づく統合失調症の再発予防研究	加藤敏、八木剛平	レジリアンスー現代精神医学の新しいパラダイムー	金原出版	東京	2009	147-163
根本隆洋、水野雅文	社会的認知を標的とした新たな認知機能リハビリテーション	精神疾患と認知機能研究会	精神疾患と認知機能	新興医学出版社	東京	2009	284-291
水野雅文	イタリアー各国の精神保健医療		改訂 世界の精神保健医療ー現状理解と今後の展望	へるす出版	東京	2009	76-84
清野 絵、水野雅文、安西信雄	イタリアにおける精神科医療改革	新福尚隆	世界における精神科医療改革	中山書店	東京	2010	105-117
富山大学							

鈴木道雄.	前駆期における生物学的指標による診断	水野雅文	専門医のための精神科臨床リュミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	60-71
鈴木道雄	脳画像からみた統合失調症の顕在発症防御機構	加藤敏、八木剛平	レジリアンスー現代精神医学の新しいパラダイムー	金原出版	東京	2009	165-185
		水野雅文, 鈴木道雄, 岩田仲生監訳	早期精神病の診断と治療	医学書院	東京	2010	
住吉太幹, 川崎康弘, 鈴木道雄訳	精神病未治療期間：定義, 測定および転帰との関連	水野雅文, 鈴木道雄, 岩田仲生監訳	早期精神病の診断と治療	医学書院	東京	2010	122-139
鈴木道雄訳	精神病および統合失調症の神経生物学的エンドフェノタイプ	水野雅文, 鈴木道雄, 岩田仲生監訳	早期精神病の診断と治療	医学書院	東京	2010	58-77
鈴木道雄	背外側前頭前皮質と統合失調症	神庭重信, 加藤忠史	「専門医のための精神科臨床リュミエール16. 脳科学エッセンシャルー精神疾患の生物学的理解のために」	中山書店	東京	2010	56-58
鈴木道雄	精神疾患における前頭葉の構造と機能ー統合失調症	福田正人, 鹿島晴雄	「専門医のための精神科臨床リュミエール21. 前頭葉でわかる精神疾患の臨床」	中山書店	東京	2010	101-111
高知大学							
下寺信次.	心理教育の視点から	水野雅文	専門医のための精神科臨床リュミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	195-200

下寺信次	アンチスティグマ活動	水野雅文	専門医のための精神科臨床リュミエール7巻 統合失調症の早期発	中山書店	東京	2009	195-200
下寺信次	うつ病の家族心理教育の実践	伊勢田堯・中村伸一	専門医のための精神科臨床リュミエール17 精神科治療における家族支援	中山書店	東京	2010	79-84
下寺信次	早期精神病の家族介入	水野雅文、鈴木道雄、岩田仲生	早期精神病の診断と治療	医学書院	東京	2010	298-321
下寺信次	患者や家族へのわかりやすい心理教育	笠井清登	精神科研修ノート	診断と治療社	東京	2010	印刷中
下寺信次	心理教育	大野裕	キーワード279で読み解く精神医学	中山書店	東京	2010	印刷中
下寺信次	6. 心理教育と家族援助	大野裕	うつ病ハンドブック	金剛出版	東京	2011	226-33
下寺信次	第3章 D. 心理教育		専門医を目指す人の精神医学	医学書院	東京	2011	印刷中
東北大学							
松本和紀	前駆期における非生物学的治療	水野雅文	専門医のための精神科臨床リュミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	72-79
松岡洋夫、松本和紀	精神疾患における認知機能	山内俊雄	精神疾患と認知機能	新興医学出版社	東京	2009	173-179
長崎大学							
木下裕久, 中根秀之	疫学研究からみた問題	水野雅文	専門医のための精神科臨床リュミエール5 統合失調症の早期診断と早期介入	中山書店	東京	2009	22-32

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
東邦大学					
Ryoko Yamazawa, Takahiro Nemoto, Hiroyuki Kobayashi, Bun Chino, Haruo Kashima, Masafumi Mizuno.	Association between duration of untreated psychosis, premorbid functioning, and cognitive performance and the outcome of first-episode schizophrenia in Japanese patients : prospective study.	Aust N Z J Psychiatry	42	159-165	2008
Hiroyuki Kobayashi, Takahiro Nemoto, Hiroki Koshikawa, Yasunori Osono, Ryoko Yamazawa, Masaaki Murakami, Haruo Kashima, Masafumi Mizuno.	A self-reported instrument for prodromal symptoms of psychosis: Testing the clinical validity of the PRIME Screen-Revised (PS-R) in a Japanese population.	Schizophr. Res	106	356-362	2008
Masafumi Mizuno, Michio Suzuki, Kazunori Matsumoto, Masaaki Murakami, Kiyoaki Takeshi, Tetsuo Miyakoshi, Fumiaki Ito, Ryoko Yamazawa, Hiroyuki Kobayashi, Takahiro Nemoto, Masayoshi Kurachi.	Clinical practice and research activities for early psychiatric intervention at Japanese leading centers.	Early Interv Psychiatry	3	5-9	2009
Yagihashi T, Mizuno M, Chino B, Sato Y, Sakuma K, Takabayashi T, Takao T, Kosaki K	Effects of the CYP2D6*10 Alleles and Co-medication with CYP2D6-Dependent Drugs on Risperidone Metabolism in Patients with Schizophrenia.	Human Psychopharmacology: Clinical and Experimental	24	301-308	2009
Bun Chino, Takahiro Nemoto, Chiyo Fujii, Masafumi Mizuno.	Subjective assessments of the quality of life, well-being and self-efficacy in patients with schizophrenia.	Psychiatry and Clinical Neuroscience	63	521-528	2009

Hiroyuki Kobayashi, Keiko Morita, Kiyoaki Takeshi, Hiroki Koshikawa, Ryoko Yamazawa, Haruo Kashima, Masafumi Mizuno	The effects of aripiprazole on insight and subjective experience in individuals with an at-risk mental state.	The Journal of Clinical Psychopharmacology	29	421-425	2009
Takahiro Nemoto, Ryoko Yamazawa, Hiroyuki Kobayashi, Nobuharu Fujita, Bun Chino, Chiyo Fujii, Haruo Kashima, Yuri Rassovsky, Michael Green, Masafumi Mizuno.	Cognitive training for divergent thinking in schizophrenia: A pilot study.	Progress in Neuro-psychopharmacology and Biological Psychiatry	33	15323-1536	2009
水野雅文.	精神疾患に対する早期介入	精神医学	50	217-227	2008
水野雅文.	心の病の早期発見・早期治療へむけて	心と社会	39	98-102	2008
森田桂子, 水野雅文.	統合失調症の予防と早期介入	精神科臨床サービス	8	170-173	2008
片桐直之, 水野雅文.	統合失調症	こころの科学	139	102-107	2008
辻野尚久, 龍庸之助, 佐久間啓, 水野雅文.	統合失調症ー再発脆弱性とレジリエンスに基づく再発予防の試み	臨床精神医学	37(4)	387-394	2008
茅野分, 水野雅文, 長谷川千絵, 藤井千代, 根本隆洋, 山澤涼子, 小林啓之, 村上雅昭, 鹿島晴雄.	インターネットを利用した精神障害の早期発見・早期治療 DUI (Duration of Untreated Illness, 疾病の未治療期間)を短縮するために	精神科治療学	23	579-586	2008
水野雅文.	精神疾患の早期発見と早期治療	精神経誌	110(6)	501-506	2008
森田桂子, 武士清昭, 水野雅文.	早期精神病に対する専門外来～ユースクリニック～	精神科治療学	23(9)	1059-1064	2008
根本隆洋, 藤井千代, 三浦勇太, 茅野分, 小林啓之, 山澤涼子, 村上雅昭, 鹿島晴雄, 水野雅文.	社会機能評価尺度 (Social Functioning Scale ; SFS) 日本語版の作成および信頼性と妥当性の検討	日本社会精神医学雑誌	17	188-196	2008

根本隆洋、水野雅文.	統合失調症の認知機能障害—うつ病との比較における相違点と共通点	Schizophr.Front	10	12-16	2009
山口大樹、藤井千代、辻野尚久、武士清昭、西井ヘルベルト、水野雅文	統合失調症者における自殺行動とその予防に関する臨床的研究	日本社会精神医学学会雑誌	18(1)	34-51	2009
安西里実、水野雅文	長期在院者の退院支援と地域生活における困難について—制度・システムの視点から	精神科臨床サービス	9	318-322	2009
中村道子、蓮舎寛子、水野雅文	教育現場で問題を抱える子どもへの対応	日本社会精神医学学会雑誌	18	217-221	2009
藤井千代、水野雅文	初回エピソード改善後の維持治療期間	臨床精神薬理	12	2141-2149	2009
水野雅文	高齢精神障害者の地域ケアとサクセスフルエイジング	老年精神医学雑誌	20	1206-1207	2009
Herbert Nishii, Ryoko Yamazawa, Shinji Shimodera, Michio Suzuki, Tomonori Hasegawa, Masafumi Mizuno	Clinical and social determinants of a longer duration of untreated psychosis of schizophrenia in a Japanese population	Early Intervention in Psychiatry	4	182-188	2010
Kobayashi H*, Yamazawa R, Nemoto T, Murakami M, Kashima H, Mizuno M	Correlation between attenuated psychotic experiences and depressive symptoms among Japanese students.	Early Intervention in Psychiatry	4	200-205	2010
Takeshi K, Nemoto T*, Fumoto M, Arita H, Mizuno M	Reduced prefrontal cortex activation during divergent thinking in schizophrenia: A multi-channel NIRS study.	Progress in Neuro-psychopharmacology	34	1327-1332	2010
水野雅文	早期介入における看護師への期待	病院・地域精神医学	52(3)		2010
辻野尚久、森田桂子、根本隆洋、水野雅文	DUP(duration of untreated psychosis)と薬物療法による治療予後	臨床精神薬理	13	47-51	2010
辻野尚久、水野雅文	早期介入・初期治療の意義	薬局	61	27-31	2010

山澤涼子、水野雅文	小児科医が知っておくべき思春期の心— 変な声が聞こえる、ありえないことが頭に浮かぶ統合失調症	小児科診療	73(1)	61-66	2010
長谷川千絵、茅野分、城川美佳、井原一成、長谷川友紀、水野雅文	都市部における初発うつ病の未治療期間と受診を遅らせる因子の検討	日本社会精神医学雑誌	18	321-329	2010
辻野尚久、片桐直之、小林啓之、根本隆洋、水野雅文	早期精神病における精神科医の意識と治療判断について	精神医学	52	1151-1160	2010
小林啓之、水野雅文	ARMSとは何か	精神科	17	211-214	2010
武士清昭、森田桂子、根本隆洋、水野雅文	統合失調症の早期発見・介入の試み—特殊外来の現状と課題—東邦大学大森病院	精神科	17	225-229	2010
小林啓之、水野雅文	早期精神病の診断と治療	日本精神科病院協会雑誌	29	6-11	2010
伊藤慎也、長谷川友紀、松本邦愛、辻野尚久、東儀奈生、水野雅文	診療記録を用いたDUP評価における評価者間の一致度について	精神医学	53	印刷中	2010
小林啓之 水野雅文 富山大学	早期介入による予後改善	精神医学	53	137-142	2011
Kawasaki Y., Suzuki M., Takahashi T., Nohara S., McGuire P.K., Seto H., and Kurachi M.	Anomalous cerebral asymmetry in patients with schizophrenia demonstrated by voxel-based morphometry.	Biol. Psychiatry	63	793-800	2008
Matsui M., Suzuki M., Zhou S.-Y., Takahashi T., Kawasaki Y., Yuuki H., Kato K., and Kurachi M.	Prefrontal brain volume and characteristics of memory strategy in schizophrenia spectrum disorders.	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry	32	1854-1862	2008

Takahashi T., Suzuki M., Nakamura K., Tanino R., Zhou S.-Y., Hagino H., Niu L., Kawasaki Y., Seto H., and Kurachi M.	Association between absence of the adhesion interthalamica and amygdala volume in schizophrenia.	Psychiatry Res. Neuroimaging	162	101-111	2008
Takahashi T., Suzuki M., Tsunoda M., Kawamura Y., Takahashi N., Tsuneki H., Kawasaki Y., Zhou S.-Y., Kobayashi S., Sasaoka T., Seto H., Kurachi M., and Ozaki N.	Association between the brain-derived neurotrophic factor Val66Met polymorphism and brain morphology in a Japanese sample of schizophrenia and healthy comparisons.	Neurosci. Lett.	435	34-39	2008
Takahashi T., Suzuki M., Tsunoda M., Kawamura Y., Takahashi N., Maeno N., Kawasaki Y., Zhou S.-Y., Hagino H., Niu L., Tsuneki H., Kobayashi S., Sasaoka T., Seto H., Kurachi M., and Ozaki N.	The association of genotypic combination of the DRD3 and BDNF polymorphisms on the adhesion interthalamica and medial temporal lobe structures.	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry	32	1236- 1242	2008
Takahashi T., Suzuki M., Zhou S.-Y., Nakamura K., Tanino R., Kawasaki Y., Seal M.L., Seto H., and Kurachi M.	Prevalence and length of the adhesion interthalamica in schizophrenia spectrum disorders.	Psychiatry Res. Neuroimaging	164	90-94	2008
Takahashi T., Yucel M., Yung A.R., Wood S.J., Phillips L.J., Berger G.E., Ang A., Soulsby B., McGorry P.D., Suzuki M., Velakoulis D., and Pantelis C.	Adhesion interthalamica in individuals at high-risk for developing psychosis and patients with psychotic disorders.	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry	32	1708-1714	2008

Takahashi T., Yung A.R., Yucel M., Wood S.J., Phillips L.J., Harding I.H., Soulsby B., McGorry P.D., Suzuki M., Velakoulis D., and Pantelis C.	Prevalence of large cavum septi pellucidum in ultra-high-risk individuals and patients with psychotic disorders.	Schizophr. Res	105	236-244	2008
鈴木道雄, 倉知正佳.	統合失調症の二段階仮説	Schizophr. Front	8	235-238	2008
鈴木道雄.	統合失調症の脳病態に即した早期診断・早期治療の実現のために.	富山大学医学会誌	18	21-24	2008
鈴木道雄, 高橋努, 周世昱, 川崎康弘, 角田雅彦, 倉知正佳.	統合失調症一脳画像研究からみた発病脆弱性と統合失調症型障害における顕在発症防御機構一.	臨床精神医学	37	377-384	2008
鈴木道雄, 川崎康弘, 高橋努, 住吉太幹, 西山志満子, 松井三枝, 倉知正佳, 数川悟.	精神病への早期介入と脳構造画像研究 脳と精神の医学	日本生物学的精神医学会	19(4)	203-210	2008
鈴木道雄.	精神病早期介入は是か非か.	精神医学	50	1144-1145	2008
Kawasaki Y., Suzuki M., Takahashi T., Nohara S., McGuire P.K., Seto H., and Kurachi M.	Anomalous cerebral asymmetry in patients with schizophrenia demonstrated by voxel-based morphometry.	Biol. Psychiatry	63	793-800	2008
Mizuno M, Suzuki M, Matsumoto K, Murakami M, Takeshi K, Miyakoshi T, Ito F, Yamazawa R, Kobayashi H, Nemoto T, Kurachi M	Clinical practice and research activities for early psychiatric intervention at Japanese leading centers.	Early Intervention in Psychiatry	3	5-9	2009

Takahashi T, Wood S.J, Soulsby B, McGorry P.D, Tanino R, Suzuki M, Velakoulis D, Pantelis C	Follow-up MRI study of the insular cortex in first-episode psychosis and chronic schizophrenia	Schizophr. Res.	108	48-55	2009
Takahashi T, Suzuki M, Velakoulis D, Lorenzetti V, Soulsby B, Zhou S.Y, Nakamura K, Seto H, Kurachi M, Pantelis C.	Increased pituitary volume in schizophrenia spectrum disorders.	Schizophr. Res.	108	113-120	2009
Takahashi T, Wood S.J, Yung A.R, Soulsby B, McGorry P.D, Suzuki M, Kawasaki Y, Phillips L.J, Velakoulis D, Pantelis C	Progressive gray matter reduction of the superior temporal gyrus during transition to psychosis.	Arch. Gen. Psychiatry	66	366-376	2009
Takahashi T, Wood S.J, Soulsby B, Tanino R, Wong M.T, McGorry P.D, Suzuki M, Velakoulis D, Pantelis C	Diagnostic specificity of the insular cortex abnormalities in first-episode psychotic disorders.	Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry	33	651-657	2009
Takahashi T, Wood S.J, Yung A.R, Phillips L.J, Soulsby B, McGorry P.D, Tanino R, Zhou S.Y, Suzuki M, Velakoulis D, Pantelis C	Insular cortex gray matter changes in individuals at ultra-high-risk of developing psychosis.	Schizophr. Res.	111	94-102	2009

Takahashi T, Wood S.J, Soulsby B, Kawasaki Y, McGorry P.D, Suzuki M, Velakoulis D, Pantelis C.	An MRI study of the superior temporal subregions in first-episode patients with various psychotic disorders	Schizophr. Res.	113	158-166	2009
Takayanagi Y, Kawasaki Y, Nakamura K, Takahashi T, Orikabe L, Toyoda E, Mozue Y, Sato Y, Itokawa I, Yamasue H, Kasai K, Kurachi M, Okazaki Y, Matsushita M.	Differentiation of first-episode schizophrenia patients from healthy controls using ROI-based multiple structural brain variables.	Progress Neuro-Psychopharmacol. Biol. Psychiatry	34	10-17	2010
鈴木道雄	統合失調症早期介入の基本概念と診断・治療における課題	臨床精神薬理	12	383-392	2009
鈴木道雄, 高橋努, 田仲耕大	統合失調症の早期介入・初期治療と予後	Schizophrenia Frontier	10	186-191	2009
鈴木道雄, 高橋努	統合失調症前駆期および初回エピソードにおける脳構造画像所見の特徴	臨床精神薬理	13	13-21	2009
鈴木道雄	統合失調症の発症脆弱性	医学のあゆみ	231	1028-1032	2009
Higuchi Y., Sumiyoshi T., Kawasaki Y., Itoh T., Seo T., Suzuki M.	Effect of tandospirone on mismatch negativity and cognitive performance in schizophrenia: A case report.	Journal of Clinical Psychopharmacology	30	732-734	2010
Nishii H., Yamazawa R., Shimodera S., Suzuki M., Hasegawa T., Mizuno M.	Clinical and social determinants of a longer duration of untreated psychosis of schizophrenia in a Japanese population.	Early Intervention in Psychiatry,	4	182-188	2010

Sumiyoshi T., Tsunoda M., Higuchi Y., Itoh T., Seo T., Itoh H., Suzuki M., Kurachi M.	Serotonin-1A receptor gene polymorphism and the ability of antipsychotic drugs to improve attention in schizophrenia.	Advances in Therapy	27	307-313	2010
Takahashi T., Wood S.J., Kawasaki Y., Suzuki M., Velakoulis D., Pantelis C.	Lack of progressive gray matter reduction of the superior temporal subregions in chronic schizophrenia.	Schizophr. Res.	117	101-102	2010
Takahashi T., Wood S.J., Yung A.R., Walterfang M., Phillips L.J., Soulsby B., Kawasaki Y., McGorry P.D., Suzuki M., Velakoulis D., Pantelis C.	Superior temporal gyrus volume in antipsychotic-naive people at risk of psychosis.	Br. J. Psychiatry	196	206-211	2010
Takahashi T., Suzuki M., Zhou S.Y., Tanino R., Nakamura K., Kawasaki Y., Seto H., Kurachi M.	A follow-up MRI study of the superior temporal subregions in schizotypal disorder and first-episode schizophrenia.	Schizophr. Res.	119	65-74	2010
Takayanagi Y., Kawasaki Y., Nakamura K., Takahashi T., Orikabe L., Toyoda E., Mozue Y., Sato Y., Itokawa I., Yamasue H., Kasai	Differentiation of first-episode schizophrenia patients from healthy controls using ROI-based multiple structural brain variables.	Prog. Neuropsychoph armacol. Biol. Psychiatry	34	10-17	2010
Takayanagi Y., Takahashi T., Orikabe L., Masuda N., Mozue Y., Nakamura K., Kawasaki Y., Itokawa M., Sato Y., Yamasue H., Kasai K., Otsuki	Volume reduction and altered sulco-gyral pattern of the orbitofrontal cortex in first-episode schizophrenia.	Schizophr. Res.	121	55-65	2010
兼田康宏, 上岡義 典, 住吉太幹, 古 郡規雄, 伊東 徹, 樋口悠子, 河村一 郎, 鈴木道雄, 大 森哲郎	統合失調症認知評価尺度 日本語版(SCoRS-J).	精神医学	52	1027-1030	2010

西山志満子, 川崎康弘, 住吉太幹, 田仲耕大, 高橋努, 樋口悠子, 古市厚志, 松井三枝, 倉知正佳, 数川悟, 鈴木道雄	統合失調症の早期発見・介入の試み—特殊外来の現状と課題—.	精神科	17	230-235	2010
住吉太幹, 川崎康弘, 高橋 努, 中村主計, 樋口悠子, 瀬尾友徳, 伊東徹, 古市厚志, 西山志満子, 倉知正佳, 鈴木道雄	サイコーシス早期段階における生物学的所見.	精神神経学雑誌	112	346-347	2010
鈴木道雄	統合失調症の脳形態変化とその臨床的意義.	神経心理学	26	189-195	2010
鈴木道雄	統合失調症の病態解明と早期介入：長期予後改善のために.	十全医会誌	119	58-59	2010
鈴木道雄, 高橋 努	統合失調症前駆期および初回エピソードにおける脳構造画像所見の特徴.	臨床精神薬理	13	13-21	2010
高橋 努, 鈴木道雄	島皮質と統合失調症	Clinical Neuroscience	28	449-451	2010
高知大学					
Fukuzawa K, Shimodera S, Mino Y, Nishida A, Kamimura N, Sawada K, Fujita H, Furukawa TA, Inoue S	Family psychoeducation reduced/recurrence of major depression: a randomized controlled trial.	Br J Psychiatry			(in press)
Kinoshita Y and Shimodera S, Nishida A, Kinoshita K, Watanabe N, Oshima N, Akechi T, Sasaki T, Inoue S, Furukawa TA, Okazaki Y.	Psychotic-like experiences are associated with violent behavior in adolescents.	Schizophr Res			(in press)

Oshima N, Nishida A, Fukushima M, Shimodera S, Kasai K, Okazaki Y, Sasaki T.	Psychotic-like experiences (PLEs) and mental health status in twin and singleton Japanese high school students.	Early Interv Psychiatry	4(3)	206-13	2010
Yamamoto N, Inada T, Shimodera S, Morokuma I, Furukawa TA.	Brief PANSS to assess and monitor the overall severity of schizophrenia.	Psychiatry Clin Neurosci	64(3)	262-7	2010
Nishii H, Yamazawa R, Shimodera S, Suzuki M, Hasegawa T, Mizuno M	Clinical and social determinants of a longer duration of untreated psychosis of schizophrenia in a Japanese population.	Early Interv Psychiatry	4(2)	182-8	2010
Nishida A, Sasaki T, Nishimura Y, Tanii H, Hara N, Inoue K, Yamada T, Takami T, Shimodera S, Itokawa M, Asukai	Psychotic-like experiences are associated with suicidal feelings and deliberate self-harm behaviors in adolescents aged 12-15 years.	Acta Psychiatrica Scand	121(4)	301-7	2010
Watanabe N, Furukawa TA, Shimodera S, Morokuma I, Katsuki F, Fujita H, Sasaki M, Kawamura C.	Brief Behavioral Therapy for Refractory Insomnia in Residual Depression: Assessor-Blind, Randomized Controlled Trial	J Clin Psychiatry			(in press)
泉本雄司・下寺信次	子どものこころ診療部とアーリーサイコース外来の連携～子どものこころ診療部の活動を中心として	思春期学			印刷中
下寺信次、藤田博一、下寺由佳	うつ病の心理教育 患者と家族に伝えるべきこと	臨床精神医学	39(6)	775-8	2010
下寺信次、河村葵、片岡賢一	高知大学医学部神経精神科における「アーリーサイコース外来	精神科	17	247-51	2010